

# 寺内町会館の充実活用を

## 知事

御坊商工会議所が、市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく「わがまち魅力発信事業」の一環で平成28年10月から中町2丁目商店街に「御坊寺

内町会館」＝同市御坊206＝を開設し、1年4カ月が経過した。試行錯誤しながらさまざまな取り組みを行い、約4000人(一日平均15人)が訪れ、認知度も少しずつ上がっている。メインの展示物は、これまで御坊祭の御坊町、下組、名屋組の四つ太鼓や屋台など祭礼道具、県無形文化財指定第1号の「戯瓢踊(けほんおどり)」、私鉄で日本一短く「りんこう」の愛称で地域住民に親しまれ、鉄

道ファンも多い「紀州鉄道」を特集。今月2日からは「御坊の歴史・伝統・文化特集」として御坊版シンデレラ物語の宮子姫、県指定文化財(史跡「岩内1号墳」)の被葬者として有力な悲劇の皇子「有間皇子」、中世の豪族湯川氏一族などの関連資料、衣装などを展示している。

常設の「御坊の偉人コーナー」は「ハス博士」の阪本祐二氏、「ふるさとの地学研究」の木下信之氏、「哲人政治家」の田淵豊吉氏に続き「清高の画家」の日高昌克氏と「養鶏産業の先駆者」の吉田八五郎氏を追加したほか、名誉市民第1号で東京にオリンピック(1964年)を呼んだ男として有名な和田勇氏コーナーも展示物を増やすなど充実させている。

では日高、御坊商工(現・紀史館)両高校野球部が、全国選抜高校野球大会に出場した「甲子園出場軌跡」を展示。日高は第28回、61回、64回、御坊商工は33回、53回、58回の大会にそれぞれ3回出場。入場行進の写真や記念週刊誌類をはじめ、出場選手の帽子やユニフォームなど当時の活躍ぶりがよく分かる資料を並べている。

数年前から比べると寺内町を取り巻く環境は大きく変わった。小竹八幡神社前には県事業で整備された「公衆トイレ」があり、国道から同神社前までの県道も拡張された。日高別院近くには県福祉事業団の食事処「なかがわ」があり、本町3丁目には紀州鉄道から譲り受けた廃車両「キハ603」を保存活用した「ほんまち広場603」がオープン。東町などの旧家6カ所16件が国登録有形文化財

(建造物)に指定されるなど寺内町観光の受け皿整備が進み、団体客だけでなく個人・グループ客も増えている。それだけに情報発信拠点としての会館の役割はますます大きくなっている。予算が限られている中で知恵を絞って、つてを頼りながら運営しているスタッフや関係者には頭が下がる思いだ。今後歴史・伝統・文化特集、祭礼道具展示、地元高校の作品展示などを予定し、当面は今の形で運営できると思うが、メインの常設展示物がないだけに数年先を見据えれば厳しくなる。祭礼道具を常設化するのか、過去の展示物を二巡、三巡させるのか、頭を悩ませそうだ。せっかく軌道に乗った会館が閉鎖とならないように関係者、行政、民間が一体となり盛り上げていかないとけない。

学校教育・地域振興コーナー

(真)